

## モシダーヂ・インデペンデンチ・チ・パドレ・ミゲウ 2015 年 “世界の終わりが来て、あと一日しかないとしたら、キミはどうする？”

モシダーヂ・インデペンデンチ・チ・パドレ・ミゲウは、人々の想像力を刺激する質問を投げかける。「世界の終わりが来て、あと一日しかないとしたら、キミはどうする？」と。パウリーニョ・モスカとビリー・ブランダオンの『O último dia(最後の日)』を自由に取り込んで、2015年のエンヘッドでは、予言や預言を通じて常に人々を刺激してきた不穏なテーマである、世界の終わりが常にすぐにもやってきそうに思われるということ、敢えて取り上げる。しかし、地球上における人類の冒険談に終止符が打たれる可能性を眼前に、キミは何をするだろうか？世界が本当に終わりを迎え、あと一日の命となってしまったら、最後の日だけだとしたら、、、キミはどうする？

「ねえキミ

あと一日しか残されていないとしたらどうする？

この世界が終わってしまうとしたら

どうするのか言ってくれないか？」

馴染みの建物や道路が、あなたの足元に崩れ落ちてしまったとしたら、

「どうするのか言ってくれないか？」

預言者たちが言ったことは嘘ではなかった。

賢者たちは本当に知っていたのだ。聖者たちは感じていたのだ。透視能力者たちは見ていたのだ。

教皇たちはこれについて説法し、祈り、願っていたのだ。

魔術師たちは未来を読み取っていたのだ。

予感や悪夢、あれは終末を夢に見ていたのだ。

狂ったのではなく、指針が示されていたのだ。

ある日、そう気づいたとしたら、

「どうするのか言ってくれないか？」

「精神病棟の扉を開けて」喜びを表現する？

今や狂気は現実となり、審判の時、最後の日だ。

「ねえキミ

あと一日しか残されていないとしたらどうする？」

「ショッピングセンターに

あるいは学校に駆け込む？」

世界がなくなってしまうその脇で、どうするのか言ってくれ。  
残された時間を、いつもと同じリズムと調子で、有効活用する？  
いつもの用事を、ひとつひとつ、同じようにこなす？  
時を戻すことはできないけれど、さて、キミは遊ぶ？  
友達と楽しく過ごして、良き人生の時を送る？  
明日が来ないとしたら、歌う？踊る？笑う？

何時間、何分、何秒と、この日が終わるのを待つ？

「ねえキミ  
あと一日しか残されていないとしたらどうする？」

悲しみをかなぐり捨てて、抑えていたものを解き放つ？  
シャツもスカートも脱ぎ捨てて、道に飛び出す？  
「雨の中を裸で歩き回って」、何を構うものかとアオカンする？  
宙に身を投げ出す？空を飛ぶことでも習うの？  
生きとしはいいとして、最後の日だということは、今後生けるものなんてあるのだろうか？

世の中に貢献して、渴いたのどを潤して、死ぬ？  
この世界が終わってしまうとしたら、さて、通りを我が物にして、そして消える？  
そうすると、生きる喜びとやらは、キミをどこへ向かわせるのだろうか？  
「マイカーを爆破して、往来を妨害して、笑う」？  
「あと一日しか残されていないとしたらどうする？  
この世界が終わってしまうとしたら  
どうするのか言ってくれないか？」

足元の地面が大きく揺れて、逃げ道もないとしたら？  
大津波が押し寄せて、大勢の人を飲み込んでいったら？  
仮装して大通りに出て楽しむ？  
キミならどうする？  
ブンボを強く叩き、タンポリンを叩きまくる？  
バイアーナとして回り、旗を掲げ、観衆に訴える？  
モシダーヂに加わって、止まることなくサンバする？  
こうすることで、生き延びられると信じる？  
さて、この最後の日が、カーニバルだとしたら、キミは終わってしまうのだろうか？

“世界の終わりが来て、あと一日しかないとしたら、キミはどうする？”